

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査報告

4月17日に実施された『平成30年度 全国学力・学習状況調査』の実施結果をご報告いたします。

## 1 質問紙調査の結果と今後の取り組み

本校児童質問紙の回答結果集計を国や県と比較したところ、次のような傾向が見られました。

- 「自分によいところがあると思う」
- 「将来の夢や希望を持っている」
- 「人の役に立つ人間になりたいと思う」
- 「朝食を毎日食べている」
- 「家で、学校の宿題をしている」
- 「今住んでいる地域の行事に参加している」
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」
- ▲「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きている」
- ▲「学校の授業時間以外に読書をしている」
- ▲「家で学校の授業の予習・復習をする」
- ▲「地域社会でボランティア活動に参加したことがある」



- ・ ○国や県の結果と比較して、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えた割合が多かった項目
- ・ ▲国や県の結果と比較して、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えた割合がやや少なかった項目

### 《今後の取り組み》

太尾小学校の6年生児童は、生活習慣・学習習慣については、全体として国や県の基準より良好な状態にあるようです。「自分のよいところ」を意識し、「将来の夢や希望」をもち、さらに「人の役に立つ人間」になろうと考えている子どもたちが8割を超えています。

学習面においては、「算数や理科の勉強は大切」だと捉え、意欲的に学習に取り組んでいる様子が窺えます。また、ほとんどの児童が、家庭で学校の宿題に取り組んでいます。しかし、家庭において宿題以外の学習に取り組んだり、読書をしたりする時間が少ないのが課題として挙げられます。家庭での過ごし方についても、声かけをしていくように努めていきます。

地域との関わりに関しては、多くの「ひと」「こと」「もの」にかかわる教育活動を充実させ、地域と連携した教育課程を作成しているため、地域に関心をもち、行事に参加する児童が多いようです。しかし、自ら地域のボランティア活動に参加したことがある児童は多いとは言えないようです。準備された行事に参加することは多いのですが、自らできることを見つけ行動を起こすところに、課題があります。引き続き、地域の方、学校運営協議会ともさらに協力し、生活科・総合的な学習の時間や課外活動などを中心として、地域で育つ子ども、地域に主体的にかかわっていかうとする子どもに育てていきます。

児童質問紙調査の結果からも、子どもたちがよりよい学校生活を送るためには、ご家庭の協力が不可欠です。今後も学校生活の様子をお伝えしながら、一人ひとりの課題にそった連携・協力を大切にしていきます。

## 2 国語・算数・理科の調査結果の傾向と取り組み

次の表は、本校児童の平均正答率(%)を国や県の平均正答率と比較したものです。  
国語と算数の問題A・B、理科において国、県の正答率を大きく上回っていることが分かります。

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
横浜市立太尾小学校	82	66	74	68	69
神奈川県(公立)	70	54	64	52	60
全国(公立)	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

※問題A…主に基礎的・基本的な学習内容の知識を問う問題です。

問題B…主にこれまでに身に付けた基礎的・基本的な内容の活用力を問う問題です。

### 【国語】

**話すこと・聞くこと** ○相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す。

**書くこと** ○自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える。  
▲目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。

**読むこと** ○登場人物の心情について、情景描写をもとに捉える。  
▲目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む。

### 【算数】

**数と計算** ○1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる。

**量と測定** ○示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を求めることができる。  
▲単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している。

**図形** ○合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に条件に合う図形を見いだすことができる。  
▲円周率の意味について理解している。

**数量関係** ▲メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述することができる。

### 【理科】

○より妥当な考えをつくり出すために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察できる。  
▲より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる。

○よい状況と考えられる内容 ▲指導が必要と考えられる内容



### 《今後の取り組み》

国語・算数ともに、問題Aや理科の「主として『知識』に関する問題」の正答率は高く、良い状況といえます。児童が授業で学習した内容を理解していることが分かります。一方、国語Bと理科の記述式の問題に課題が見られました。自分の考えを記述することが苦手なようです。自分の考えを筋道立てて説明したり、他の人の考えと比べたりする学習活動の中で、自分の考えを文章で書くという活動を今後も進んで取り入れていきます。また、日頃から実際の生活の場や他教科の学習でも、問題解決において、自分の考えを表現する活動を多く取り入れていきます。